

社会資本総合整備計画

事後評価の評価項目

第3 社会資本総合整備計画の評価について

- 4 中間評価及び事後評価は次に掲げる事項について行うものとする。
 - 一 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況（…）
 - 二 事業効果の発現状況
 - 三 （…）事後評価にあっては評価指標の最終目標値の実現状況
 - 四 今後の方針

富士の麓の高原都市にふさわしい水環境保（防災・安全） （平成31年度～令和4年度）

（千円）

要素事業番号	要素となる事業名	事業内容	全体事業費 （計画値）	全体事業費 （実績値）	進捗 状況
A07-001	御殿場浄化センター 耐震化事業	消毒施設及び沈砂池棟の 耐震化	132,000	121,380	完了 （R5完了）
A07-002	ストックマネジメント 計画の見直し	ストックマネジメント実 施計 画の見直し	18,000	17,800	完了
A07-003	管渠施設ストックマネジ メント事業	重要管路点検・調査 L =6.0 k m	17,000	（全事業費） 24,090 （交付金事業費） 0	完了
A07-004	御殿場浄化センター ストックマネジメント事業	沈砂池設備更新	358,000	192,800	完了 （R5完了）
A07-005	下水道施設ストックマネ ジメント事業	マンホール蓋更新 N=190箇所	80,000	（全事業費） 145,693 （交付金事業費） 36,955	完了

富士の麓の高原都市にふさわしい水環境保全（防災・安全）

計画の成果目標

- 1 R4までに、御殿場市下水道総合地震対策計画に基づき消毒施設及び沈砂池棟の耐震化を行う。
- 2 R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づく最重要・重要管路の点検・調査の実施距離を累計7.4kmとする。
- 3 R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づき、御殿場浄化センター沈砂池設備の更新を行う。
- 4 R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づき、マンホール蓋の更新を行う。

社会資本総合整備計画 防災・安全交付金

令和04年01月19日

計画の名称	富士の麓の高原都市にふさわしい水環境保全（防災・安全）												
計画の期間	平成31年度 ～ 令和04年度（4年間）										重点配分対象の該当		
交付対象	御殿場市												
計画の目標	御殿場浄化センターについては再構築計画に基づく施設の耐震化や機器更新等を行い、管渠施設についてはストックマネジメント計画に基づいて点検・調査を進めることで、事故の未然防止を図る。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	605	A	605	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		(H31当初)	(R2末)	(R4末)
1	R4までに、御殿場市下水道総合地震対策計画に基づき消毒施設及び沈砂池棟の耐震化を行う。 総合地震対策計画に基づく耐震化済の施設数	0箇所	1箇所	2箇所
2	R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づく最重要・重要管路の点検・調査の実施距離を累計7.4kmとする。 下水道ストックマネジメント計画に基づく管路の点検・調査	2 k m	5 k m	8 k m
3	R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づき、御殿場浄化センター沈砂池設備の更新を行う。 下水道ストックマネジメント計画に基づく機器更新済の施設数	0箇所	0箇所	1箇所
4	R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づき、マンホール蓋の更新を行う。 下水道ストックマネジメント計画に基づくマンホール蓋更新済の数	0箇所	0箇所	190箇所

備考等	個別施設計画を含む	○	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

1 R4までに、御殿場市下水道総合地震対策計画に基づき消毒施設及び沈砂池棟の耐震化を行う。

【要素事業番号A07-001】

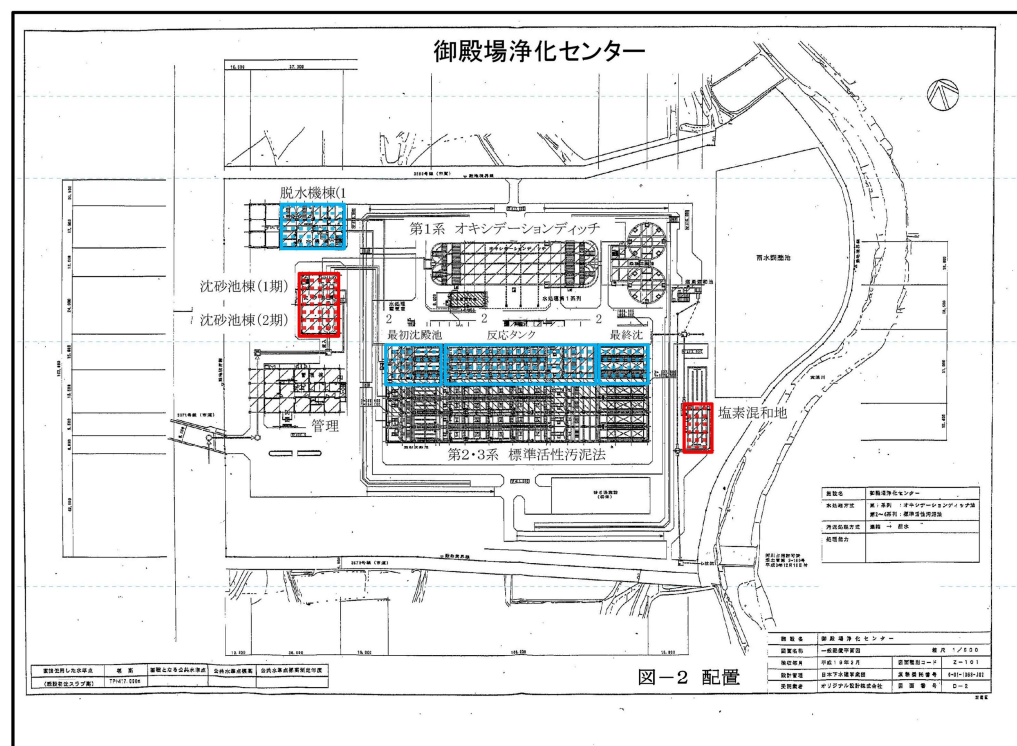
総合地震対策計画に基づく耐震化予定の施設

- 沈砂池棟
- 2系反応タンク
- 脱水機棟（1期）
- 2系最終沈殿池
- 2系最初沈殿池
- 2系塩素混和地

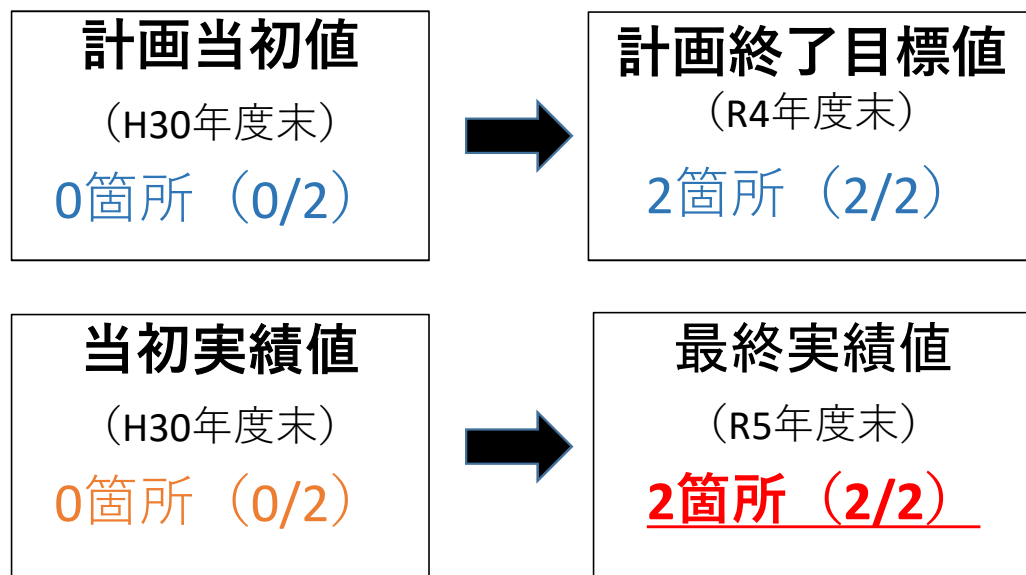
○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		目標値と実績値に差が出た要因
	目標値／実績値		
1	消毒施設及び沈砂池棟の耐震化		
	最 終 目標値	2箇所	R5事業完了 沈砂池棟耐震工事はR3-R4計画だったが、新型コロナウイルス流行や全国的な半導体不足等があり、R5まで工期が延長したため。
	最 終 実績値	2箇所	
2	最重要・重要管路の点検・調査		
	最 終 目標値	8 k m	外の事業を優先し、該当事業は交付金事業から除外したため、社会資本総合整備計画としては目標達成率0 %となった。しかし、市単独費を使用し、点検・調査が順調に進み、計画以上の計8.3 k m点検・調査を行った。
	最 終 実績値	2 k m	
3	沈砂池設備の更新		
	最 終 目標値	1箇所	R5事業完了 沈砂池棟耐震工事はR3-R4計画だったが、新型コロナウイルス流行や全国的な半導体不足等があり、R5まで工期が延長したため。
	最 終 実績値	1箇所	
4	マンホール蓋更新予定数		
	最 終 目標値	190箇所	令和4年度交付金は3沈砂池更新工事を優先したため、社会資本総合整備計画としては目標値に至らなかったが、令和2年より市単独費にて更新を実施していたことから、総数としては目標値を上回った。
	最 終 実績値	83箇所	

耐震化

御殿場市下水道総合地震対策計画に基づき消毒施設及び沈砂池棟の耐震化を行う。

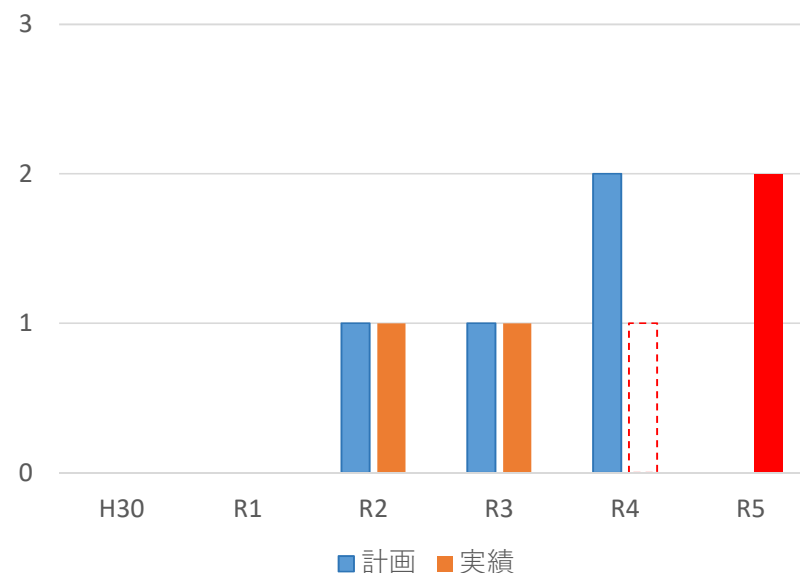


1 耐震化



●主な事業内容

- ・塩素混和池棟耐震工事
- ・沈砂池棟耐震工事



●目標値と実績値に差が出た要因

沈砂池棟耐震工事はR3-R4計画だったが、新型コロナウイルス流行や全国的な半導体不足等があり、R5まで工期が延長したため。

事業効果の発現状況

- ・ **定量的指標に関する事業効果の発現状況**

処理場の耐震化により、震災時の下水道処理機能の確保、向上が図られた

- ・ **定量的指標以外の事業効果の発現状況（必要に応じて）**

社会資本総合整備計画 防災・安全交付金

令和04年01月19日

計画の名称	富士の麓の高原都市にふさわしい水環境保全（防災・安全）												
計画の期間	平成31年度 ～ 令和04年度（4年間）								重点配分対象の該当				
交付対象	御殿場市												
計画の目標	御殿場浄化センターについては再構築計画に基づく施設の耐震化や機器更新等を行い、管渠施設についてはストックマネジメント計画に基づいて点検・調査を進めることで、事故の未然防止を図る。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	605	A	605	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H31当初)	中間目標値 (R2末)	最終目標値 (R4末)
1	R4までに、御殿場市下水道総合地震対策計画に基づき消毒施設及び沈砂池棟の耐震化を行う。 総合地震対策計画に基づく耐震化済の施設数	0箇所	1箇所	2箇所
2	R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づく最重要・重要管路の点検・調査の実施距離を累計7.4kmとする。 下水道ストックマネジメント計画に基づく管路の点検・調査	2 k m	5 k m	8 k m
3	R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づき、御殿場浄化センター沈砂池設備の更新を行う。 下水道ストックマネジメント計画に基づく機器更新済の施設数	0箇所	0箇所	1箇所
4	R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づき、マンホール蓋の更新を行う。 下水道ストックマネジメント計画に基づくマンホール蓋更新済の数	0箇所	0箇所	190箇所

備考等	個別施設計画を含む	○	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

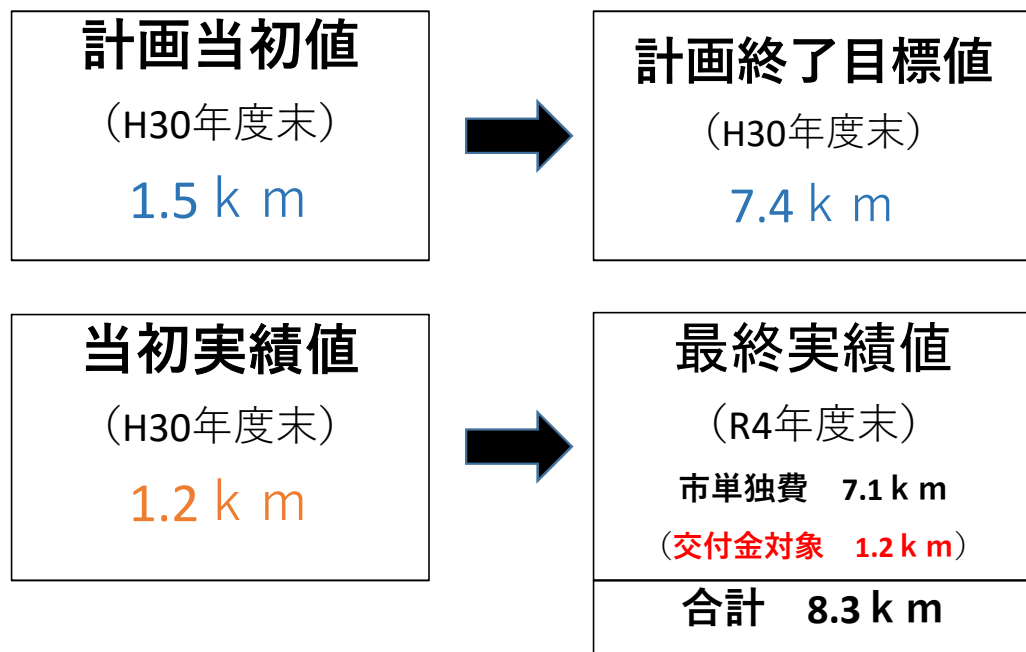
2 R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づく最重要・重要管路の点検・調査の実施距離を累計7.4kmとする。

【要素事業番号A07-003】

下水道ストックマネジメント計画に基づく管路の点検・調査

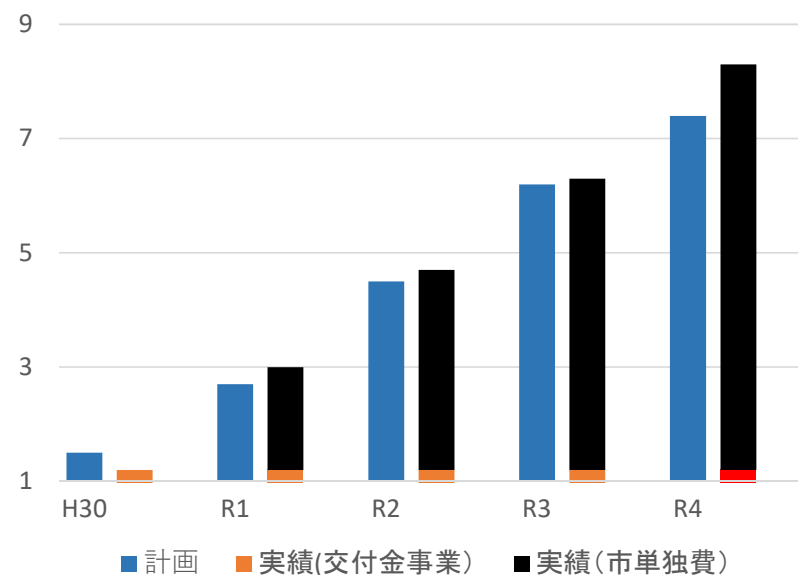
○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	消毒施設及び沈砂池棟の耐震化		
	最 終 目標値	2箇所	R5事業完了 沈砂池棟耐震工事はR3-R4計画だったが、新型コロナウイルス流行や全国的な半導体不足等があり、R5まで工期が延長したため。
	最 終 実績値	2箇所	
2	最重要・重要管路の点検・調査		
	最 終 目標値	8 k m	外の事業を優先し、該当事業は交付金事業から除外したため、社会資本総合整備計画としては目標達成率0％となった。しかし、市単独費を使用し、点検・調査が順調に進み、計画以上の計8.3 k m点検・調査を行った。
	最 終 実績値	2 k m	
システム小数点不可のため 1.2km→2km		R5事業完了 沈砂池棟耐震工事はR3-R4計画だったが、新型コロナウイルス流行や全国的な半導体不足等があり、R5まで工期が延長したため。	
3	目標値	1箇所	
	最 終 実績値	1箇所	
4	マンホール蓋更新予定数		
	最 終 目標値	190箇所	令和4年度交付金は3沈砂池更新工事を優先したため、社会資本総合整備計画としては目標値に至らなかったが、令和2年より市単独費にて更新を実施していたことから、総数としては目標値を上回った。
最 終 実績値	83箇所		

2 管路の点検・調査



●主な事業内容

竈・永原・森之腰・湯沢地区 外、
最重要・重要管路点検・調査



●目標値と実績値に差が出た要因

外の事業を優先し、該当事業は交付金事業から除外したため、社会資本総合整備計画としては目標達成率0%となった。

しかし、市単独費を使用し、点検・調査が順調に進み、計画以上の計8.3 k m点検・調査を行った。

事業効果の発現状況

- ・ **定量的指標に関する事業効果の発現状況**

最重要・重要管路の点検・調査を行ったことにより、管路の状態を適確に把握し、必要に応じて修繕・改築を行ったため、安定的な事業運営が行われた。 今回の点検調査を基に今後のストックマネジメント計画に反映させていく。

- ・ **定量的指標以外の事業効果の発現状況（必要に応じて）**

社会資本総合整備計画 防災・安全交付金

令和04年01月19日

計画の名称	富士の麓の高原都市にふさわしい水環境保全（防災・安全）													
計画の期間	平成31年度　～　令和04年度（4年間）										重点配分対象の該当			
交付対象	御殿場市													
計画の目標	御殿場浄化センターについては再構築計画に基づく施設の耐震化や機器更新等を行い、管渠施設についてはストックマネジメント計画に基づいて点検・調査を進めることで、事故の未然防止を図る。													
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		605	A	605	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		(H31当初)	(R2末)	(R4末)
1	R4までに、御殿場市下水道総合地震対策計画に基づき消毒施設及び沈砂池棟の耐震化を行う。 総合地震対策計画に基づく耐震化済の施設数	0箇所	1箇所	2箇所
2	R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づく最重要・重要管路の点検・調査の実施距離を累計7.4kmとする。 下水道ストックマネジメント計画に基づく管路の点検・調査	2 k m	5 k m	8 k m
3	R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づき、御殿場浄化センター沈砂池設備の更新を行う。 下水道ストックマネジメント計画に基づく機器更新済の施設数	0箇所	0箇所	1箇所
4	R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づき、マンホール蓋の更新を行う。 下水道ストックマネジメント計画に基づくマンホール蓋更新済の数	0箇所	0箇所	190箇所

備考等	個別施設計画を含む	○	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

3 R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づき、御殿場浄化センター沈砂池設備の更新を行う。

【要素事業番号A07-004】

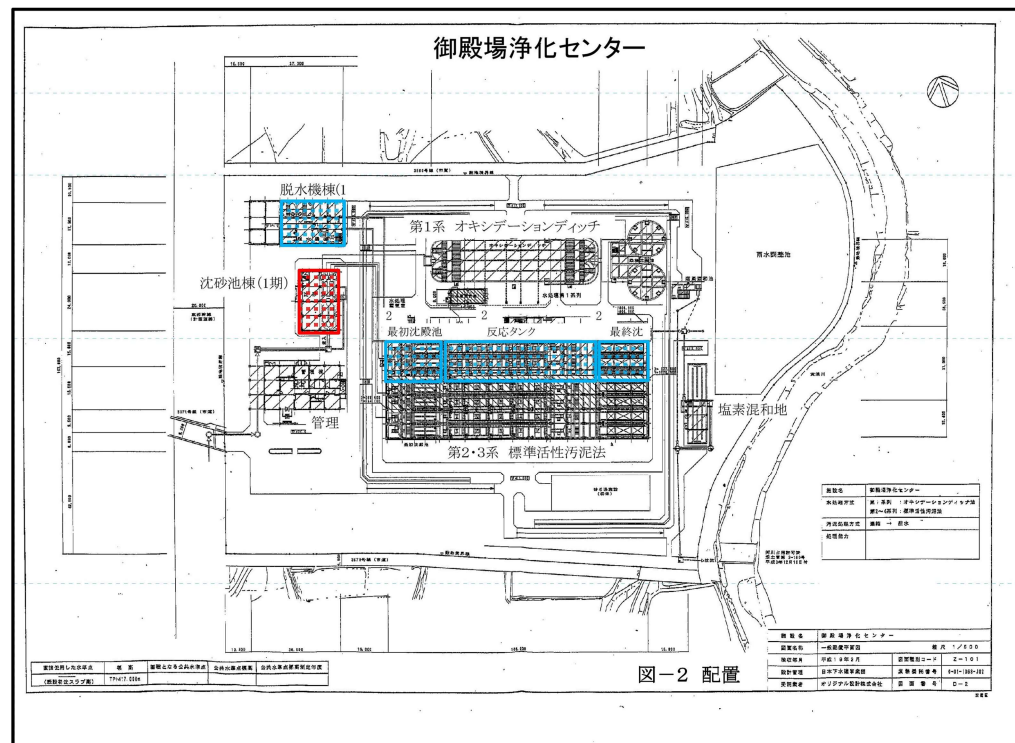
下水道ストックマネジメント計画に基づく機器更新予定の施設

- 沈砂池
- 2系反応タンク
- 脱水機
- 2系最終沈殿池
- 2系最初沈殿池

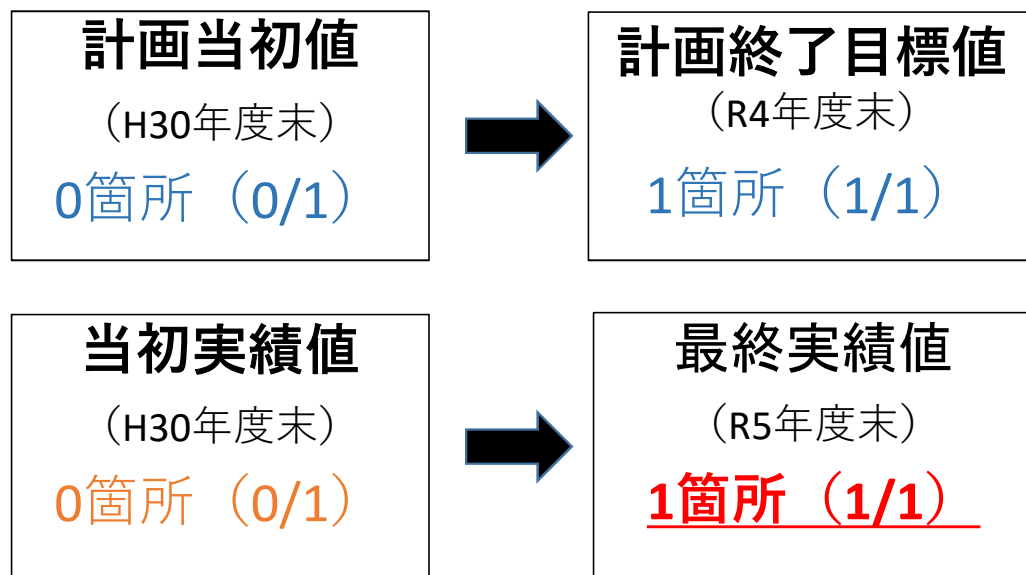
○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	消毒施設及び沈砂池棟の耐震化		
	最 終 目標値	2箇所	R5事業完了 沈砂池棟耐震工事はR3-R4計画だったが、新型コロナウイルス流行や全国的な半導体不足等があり、R5まで工期が延長したため。
	最 終 実績値	2箇所	
2	最重要・重要管路の点検・調査		
	最 終 目標値	8 k m	外の事業を優先し、該当事業は交付金事業から除外したため、社会資本総合整備計画としては目標達成率0％となった。しかし、市単独費を使用し、点検・調査が順調に進み、計画以上の計8.3 k m点検・調査を行った。
	最 終 実績値	2 k m	
3	沈砂池設備の更新		
	最 終 目標値	1箇所	R5事業完了 沈砂池棟耐震工事はR3-R4計画だったが、新型コロナウイルス流行や全国的な半導体不足等があり、R5まで工期が延長したため。
	最 終 実績値	1箇所	
4	マンホール蓋更新予定数		
	最 終 目標値	190箇所	令和4年度交付金は3沈砂池更新工事を優先したため、社会資本総合整備計画としては目標値に至らなかったが、令和2年より市単独費にて更新を実施していたことから、総数としては目標値を上回った。
	最 終 実績値	83箇所	

機器更新

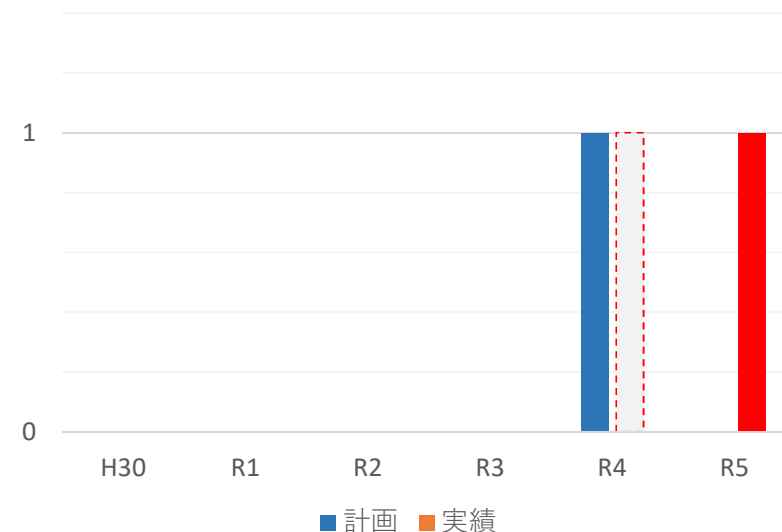
下水道ストックマネジメント計画に基づき、御殿場浄化センター沈砂池設備の更新を行う。



3 機器更新



- 主な事業内容
 - ・ 沈砂池設備更新工事



● 目標値と実績値に差が出た要因

沈砂池棟耐震工事はR3-R4計画だったが、新型コロナウイルス流行や全国的な半導体不足等があり、R5まで工期が延長したため。

事業効果の発現状況

- ・ **定量的指標に関する事業効果の発現状況**

沈砂池設備更新を行ったことにより、沈砂池機能が回復し、御殿場浄化センターの長寿命化に寄与した。

- ・ **定量的指標以外の事業効果の発現状況（必要に応じて）**

社会資本総合整備計画 防災・安全交付金

令和04年01月19日

計画の名称	富士の麓の高原都市にふさわしい水環境保全（防災・安全）												
計画の期間	平成31年度 ～ 令和04年度（4年間）								重点配分対象の該当				
交付対象	御殿場市												
計画の目標	御殿場浄化センターについては再構築計画に基づく施設の耐震化や機器更新等を行い、管渠施設についてはストックマネジメント計画に基づいて点検・調査を進めることで、事故の未然防止を図る。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	605	A	605	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		(H31当初)	(R2末)	(R4末)
1	R4までに、御殿場市下水道総合地震対策計画に基づき消毒施設及び沈砂池棟の耐震化を行う。 総合地震対策計画に基づく耐震化済の施設数	0箇所	1箇所	2箇所
2	R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づく最重要・重要管路の点検・調査の実施距離を累計7.4kmとする。 下水道ストックマネジメント計画に基づく管路の点検・調査	2 k m	5 k m	8 k m
3	R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づき、御殿場浄化センター沈砂池設備の更新を行う。 下水道ストックマネジメント計画に基づく機器更新済の施設数	0箇所	0箇所	1箇所
4	R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づき、マンホール蓋の更新を行う。 下水道ストックマネジメント計画に基づくマンホール蓋更新済の数	0箇所	0箇所	190箇所

備考等	個別施設計画を含む	○	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

4 R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づき、マンホール蓋の更新を行う。

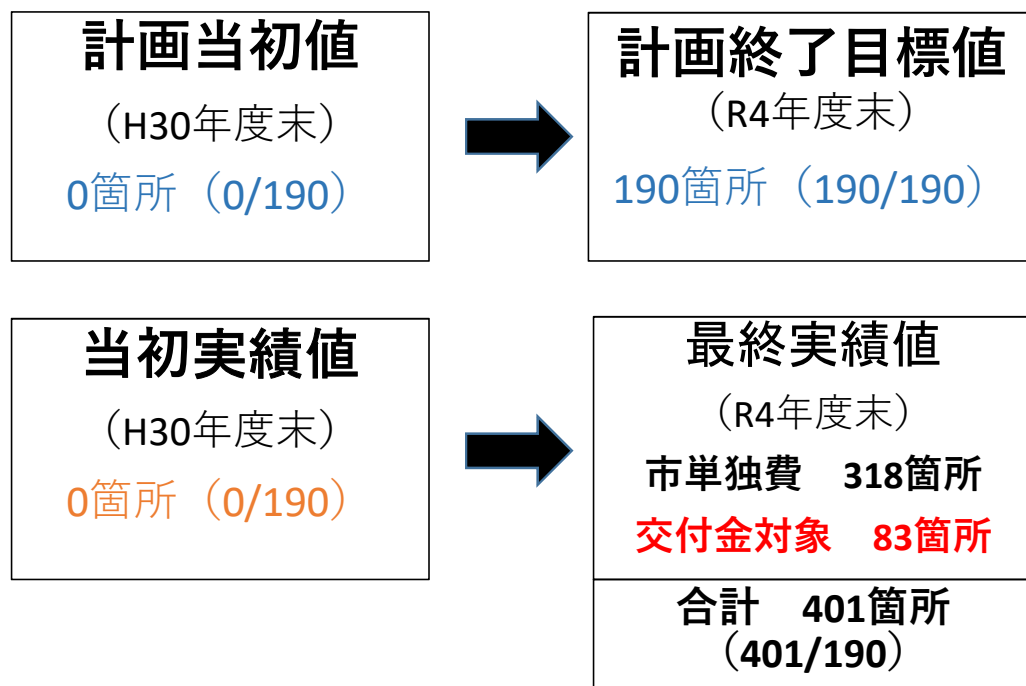
【要素事業番号A07-005】

下水道ストックマネジメント計画に基づくマンホール蓋の更新予定数

190箇所／6000箇所

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		目標値と実績値に差が出た要因
	目標値／実績値		
1	消毒施設及び沈砂池棟の耐震化		R5事業完了　沈砂池棟耐震工事はR3-R4計画だったが、新型コロナウイルス流行や全国的な半導体不足等があり、R5まで工期が延長したため。
	最　終 目標値	2箇所	
	最　終 実績値	2箇所	
2	最重要・重要管路の点検・調査		外の事業を優先し、該当事業は交付金事業から除外したため、社会資本総合整備計画としては目標達成率0％となった。　しかし、市単独費を使用し、点検・調査が順調に進み、計画以上の計8.3 k m点検・調査を行った。
	最　終 目標値	8 k m	
	最　終 実績値	2 k m	
3	沈砂池設備の更新		R5事業完了　沈砂池棟耐震工事はR3-R4計画だったが、新型コロナウイルス流行や全国的な半導体不足等があり、R5まで工期が延長したため。
	最　終 目標値	1箇所	
	最　終 実績値	1箇所	
4	マンホール蓋更新予定数		令和4年度交付金は3沈砂池更新工事を優先したため、社会資本総合整備計画としては目標値に至らなかったが、令和2年より市単独費にて更新を実施していたことから、総数としては目標値を上回った。
	最　終 目標値	190箇所	
	最　終 実績値	83箇所	

4 マンホール蓋更新

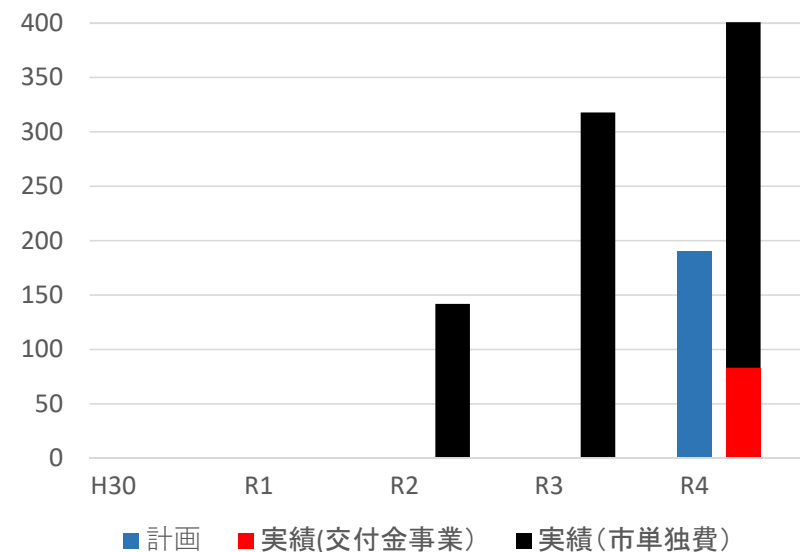


●主な事業内容

森之腰地区 外、マンホール蓋更新工事

※令和4年度から社会資本交付金事業開始

令和2年度から市単独費での事業開始



●目標値と実績値に差が出た要因

令和4年度交付金は3沈砂池更新工事を優先したため、社会資本総合整備計画としては目標値に至らなかったが、令和2年より市単独費にて更新を実施していたことから、総数としては目標値を上回った。

事業効果の発現状況

・ 定量的指標に関する事業効果の発現状況

マンホール蓋の更新を行ったことにより、ふた等のがたつきによる騒音・振動の改善や蓋表面の耐スリップ構造による車両のスリップ防止が図られ安全性が向上した。

・ 定量的指標以外の事業効果の発現状況（必要に応じて）

マンホール内に追加で転落防止梯子の設置したことにより、安全性が向上した。

事後評価	
○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
庁内の下水道業務経験者を含む事後評価委員を選定し、社会資本総合整備計画事後評価委員会（下水道）にて事後評価について意見を聴取した。	令和6年7月
	公表の方法 御殿場市HP
○事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・処理場の耐震化により、震災時の下水道処理機能の確保、向上が図られた ・最重要・重要管路の点検・調査を行ったことにより、管路の状態を適確に把握し、必要に応じて修繕・改築を行ったため、安定的な事業運営が行われた。今回の点検調査を基に今後のストックマネジメント計画に反映させていく。 ・沈砂池設備更新を行ったことにより、沈砂池機能が回復し、御殿場浄化センターの長寿命化に寄与した。 ・マンホール蓋の更新を行ったことにより、ふた等のがたつきによる騒音・振動の改善や蓋表面の耐スリップ構造による車両のスリップ防止が図られ安全性が向上した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	・マンホール内に追加で転落防止梯子の設置したことにより、安全性が向上した。
○特記事項（今後の方針等）	
下水道ストックマネジメント計画に基づき、管渠・施設の更新、耐震工事を行っていく。	

今後の方針等に関すること

下水道ストックマネジメント計画に基づき、管渠・施設の更新、耐震工事を行っていく。